



下

三馬

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

一 海野金五郎 海野金五郎 海野金五郎

[illegible]

● 新刻  
三上

明の侍者も、美事家か。あ

一、知子如知父，知父如知子。

付 白 紙 并 書 札 方 箋 子 紙 什 入 各 一 斗 即  
 明 書 札 一 斗 紙 一 斗 各 一 斗

國書印 刻 本 乃 今 所 已

少卿 周世宗 中書省 此 瑞 固 德 元

壬午年  
 庚子月  
 辛丑日  
 壬寅時  
 壬寅年  
 庚子月  
 辛丑日  
 壬寅時

廿一日

八三番

一度町事務所にて平比三へ書きたる書

おのれにふすま事候

財物等の所仕方より得る所の利益能く

生かすべし第一の原則なる事知すべし

幸甚と云ふ事

一 守りて守るべき財物甚多しと志す所なる人多し

然るに其財物を守るべき方より守るべき財物

未だ守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

也と云ふ事候

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

一 守りて守るべき財物に非ざるは其財物を失ふ事

幸甚と云ふ事

幸甚と云ふ事

[illegible]

夢

名作

一、井田制為富國強兵

馬年大吉

吳昌碩書

一、此書は、  
多岐な事柄

一物取一車門つゝ  
多中條主

此後乃知

音面

一 今もまた古の歌をうたへてゐる人々  
の心をよそへて

一 去年の秋に浮城に  
遊んでゐた人々

一 昔の歌をうたへてゐる人々  
の心をよそへて

一 去年の秋に浮城に  
遊んでゐた人々

一 昔の歌をうたへてゐる人々  
の心をよそへて

一 今もまた古の歌をうたへてゐる人々  
の心をよそへて

一 去年の秋に浮城に  
遊んでゐた人々

一 昔の歌をうたへてゐる人々  
の心をよそへて

一 去年の秋に浮城に  
遊んでゐた人々

一 昔の歌をうたへてゐる人々  
の心をよそへて

一 去年の秋に浮城に  
遊んでゐた人々

一 今もまた古の歌をうたへてゐる人々  
の心をよそへて

一 去年の秋に浮城に  
遊んでゐた人々

吾の故郷に於て（吾の故郷に於て）  
多しき同士の（多しき同士の）  
知るる（知るる）  
多しき（多しき）  
但し（但し）  
知る（知る）  
多し（多し）

一 中居る（中居る）  
是れ（是れ）  
多し（多し）  
知る（知る）

一 中居る（中居る）  
是れ（是れ）  
多し（多し）  
知る（知る）

一 中居る（中居る）  
是れ（是れ）  
多し（多し）  
知る（知る）

一 中居る（中居る）  
是れ（是れ）  
多し（多し）  
知る（知る）

一 中居る（中居る）  
是れ（是れ）  
多し（多し）  
知る（知る）

一 中居る（中居る）  
是れ（是れ）  
多し（多し）  
知る（知る）

一 中居る（中居る）  
是れ（是れ）  
多し（多し）  
知る（知る）

一 中居る（中居る）  
是れ（是れ）  
多し（多し）  
知る（知る）

一 中居る（中居る）  
是れ（是れ）  
多し（多し）  
知る（知る）



九月二日

米加

一 陸奥江岸 龍田庄 志 其 乃 乃 乃 乃

即 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 水 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃

一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



丁巳年  
 古稀之  
 清江  
 易書  
 片  
 年  
 之  
 月  
 日

書  
 作  
 年

一  
 廣  
 其  
 年  
 一  
 廣  
 其  
 年  
 一  
 廣  
 其  
 年  
 一  
 廣  
 其  
 年

田中角五郎

古書

三書

一 知照全 漢書 卷之

全 外 卷之

一 明 卷之

一 明 卷之

一 恒 卷之

一 恒 卷之

一 恒 卷之

一 恒 卷之

念つともりなきをい

中村元之伴 清原公家 中村健之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

中村元之伴 中村元之助 中村元之

右の社よりいへば後

右よりいへば後 左よりいへば後

上野の社よりいへば後 左よりいへば後

上野の社よりいへば後 左よりいへば後

上野の社よりいへば後

上野の社よりいへば後

上野の社よりいへば後 左よりいへば後

上野の社よりいへば後 左よりいへば後

上野の社よりいへば後 左よりいへば後

上野の社よりいへば後

右の社よりいへば後 左よりいへば後

右の社よりいへば後

右の社よりいへば後

右の社よりいへば後

右の社よりいへば後 左よりいへば後

右の社よりいへば後 左よりいへば後

右の社よりいへば後 左よりいへば後

右の社よりいへば後 左よりいへば後

右の社よりいへば後 左よりいへば後

右の社よりいへば後 左よりいへば後

山崎  
山崎  
山崎

一 山崎 山崎 山崎  
二 山崎 山崎 山崎  
三 山崎 山崎 山崎  
四 山崎 山崎 山崎  
五 山崎 山崎 山崎  
六 山崎 山崎 山崎  
七 山崎 山崎 山崎  
八 山崎 山崎 山崎  
九 山崎 山崎 山崎  
十 山崎 山崎 山崎

一 山崎 山崎 山崎  
二 山崎 山崎 山崎  
三 山崎 山崎 山崎  
四 山崎 山崎 山崎  
五 山崎 山崎 山崎  
六 山崎 山崎 山崎  
七 山崎 山崎 山崎  
八 山崎 山崎 山崎  
九 山崎 山崎 山崎  
十 山崎 山崎 山崎

李老孝

[illegible]

中社記方第... 家業... 思百... 光政...

一、未だ爲るべき事あり。此の如きものなり。

上卷 皇太子 一  
中卷 皇太子 一  
下卷 皇太子 一

[illegible]

日乃市書  
大施書作事

日乃市書  
大施書作事

日乃市書  
大施書作事

日乃市書  
大施書作事

仲夏作  
怪四又事  
年水清涼  
北石原古  
後色子  
年并潤  
周書一  
馬少苦作

仲夏作  
怪四又事  
年水清涼  
北石原古  
後色子  
年并潤  
周書一  
馬少苦作

仲夏作  
怪四又事  
年水清涼  
北石原古  
後色子  
年并潤  
周書一  
馬少苦作